

5月中旬、長野市で
テル国際21で開催され
た第57回2019年度
長野県日中友好協会定
期大会に北アルプス日
中友好協会11人のメン

フィールド風 (現場)からの

宮守男

バーで出席する。大会冒頭、婦人会員が壇前に整列し、日中友好の歌「永遠の友情」を参加者と大合唱。「打ち寄せる波は一つ」、「仰ぎ見る空は一つ」、「通り合う心は一つ」と「深い・熱い・じわじわの友情」と想いを込めれる。最後に、「お互に等身大の理解を進め、本年から始まる日本青少年交流推進年への積極的な取り組みを進める」との大会宣言が採択された。

がされ丁承された。会長代行に西堀正司さんが、理事長に布施正義さんが選任された。大北地域でも、二人を知る人は多い。今後、特に中国からの観光客の誘客、教育旅行の受け

「論説NPO」と「由
国際出版集団」が共
同で実施した日中アン
ケートでも、中国人の
日本への印象は、「良
い、またはどちらかと
いえれば良い」が昨年よ
り増え42・2%の割合
の誘客に期待
との信頼関係

「海外からの誘客に期待するなら「人」と「人」との信頼関係が求められる

入れ、地域経済を担う人材確保、スポーツ交流が更に充実されるのではと期待してしま

う。

何故か日本人は、中國・韓国などに好感を持てない事も事実。

作家の芥川龍之介は、文學の存在理由として「人間の社會は畢竟に逆に日本人の中國に対する意識は、「悪い」が86・3%と高い。

る。「表」の字はすつきりしていて「裏」の方はややこしい。

第57回 2019年度
長野県日中友好協会定期大会



「人」として対応できる見識を持ちたいものである。(NPO法社会フォーラム理事。上)を排除して、先入観

本的にうそで成り立つ
ている事実があり、そ
の奥に秘められた真実
を突くため」だと云
やいたといふ。「裏」
と言う字を良く見れ
「表」の一字が中には
すっぽり収まつてい

新聞各紙が報道。続報で中国側の「密命書」が見つかって爆破を付ける「証拠」も揚げ、各紙は中国側を非難する論陣を展開した。今では、あの事件は閩寧軍の自作自演だったことを知っている。

昔話で済ませず、これからも政府が何とか言つたら「それが眞実か」聞えど琉球新聞のコラム金口木舌さんが伝えた。大北地域には、多くの歴史や多彩な考えを持つ人が訪れるだろう。だからこそ